



マスター育成講座

一般社団法人介護福祉指導教育推進機構が主催する「介護福祉教育マスター」育成講座が、昨年8月25日から11月17日まで全3日間の日程で行われ、受講した。

ク)、まとめること(事後課題レポート)はもちろん、講座で身につけた「理論」を自分なりの「言葉」として「発表」、講師と質疑応答する時間などが設けられていた。

講師の黒澤貞夫氏(同機構代表理事、日本生活支援学会会長)の

介護は人間修行

目標を設定して実践したことを報告する場も与えられ、終了後に講座で学んだことと今後の目標に関するレポート作成を事後課題文として提出するという構成である。

「修学」とは、自己の選んだその仕事に没頭することである。それは自己の生涯をかけることであり、またそれだけの価値のある仕事なのである。その根拠となるものは、介護の仕事に内在する人間の資産としての思想であり、人間生活の深みと広がり求められるものである。この山頂へ挑む人間の姿は、ヒューマニズムに満ちた情熱である。近代社会は、いつの間にか、すぐに計量化して答えを求めようとす風潮にある。そこに便利さはあるが、困難を乗り越えて社会のために挑戦していく感動を失いかねないのである。本書は読者の皆さんに問いかけ、ともに考える書である」は、『介護は人間修行——一生かける価値ある仕事』のまえがきに記された著者のメッセージだ。

西田幾太郎の「形なきものの形を見、声なきものの声を聞く」、へ

好機逸すべからず

転期に立つ経営の視座(44)

同講座は、2015年4月からスタートした新認定制度「介護福祉教育エキスパート」養成講座*を修了した者が対象。講座で身につけた「理論」を深め、事例研究を通じて「実践」できる教育指導者をめざすもので、読み(事前学習)、聞き(講義)、話し合い(グループワー

著書『介護は人間修行——一生かける価値ある仕事』(日本医療企画)を教材に作成した実践ワークシートが事前配布され、1日目は「介護の本質」、2日目は「人間性と文化」、3日目は「教育」をテーマに講義とグループワーク、発表などを行った。さらに、事後学習として個人

はやかわ・ひろし

経営コンサルタント。「継承と人材創造塾」主宰。「介護ビジョン」編集委員。介護福祉教育エキスパート。著書に「99の言葉の杖」(日本医療企画)、「早川浩士の常在学場」(筒井書房)、「介護人材創造塾」(筒井書房)、「介護保険改正に勝つ!経営」(年友企画)、「データで徹底分析 介護事業の最新動向と経営展望」(日本医療企画)など。

HP: <http://www.hayakawa-planning.com>

ブログ: <http://ameblo.jp/hayakawa-planning/>

介護職員初任者研修や介護福祉士等の資格取得、介護保険法改正に関連する制度を熟知しておくことも、介護教育である。こうした枠組みにとらわれることなく、介護を学問として考える力と伝える力を備えるための幾層倍の切磋琢磨を続けられた姿勢に感奮しながら、その一翼を担う存在として何ができるか。

曹洞宗開祖・道元の言葉に「他はこれ吾にあらず(他人のしたこととは、私のしたことにならない)、さらに何れの時をか待たん(またと無いこの時をやり過ごしてしまつて、いつの時を待とうというのか、今やることに意味がある)」がある。

18年度の介護保険制度改正に向けた見直し案が出そろったものの、長期的な視点からの改革は避けられない。

経営に臨む姿勢もまた然り。好機逸すべからず。

* 2015年8月号本稿参照